



ふなばし 国際交流協会ニュース

<第41号>

2009年3月24日発行

船橋市国際交流協会 ニューイヤーパーティー2009



韓国、台湾、ミャンマー、インドネシア、中国、ナイジェリア、マレーシア、フィリピン、日本の衣装文化紹介

ニューイヤーパーティー2009

(2月15日)

2月15日(日) 毎年恒例のニューイヤーパーティーが中央公民館で開催されました。



今年は趣向を変え、アトラクションとして世界各地の衣装文化紹介と日本語教室の学習者による日本語スピーチが行われました。

衣装紹介では華やかな衣装を身にまとった人たちが、ステージではあたかもモデルのような振る舞いで観客を魅了しました。

それが終わると公民館などで日本語を学んでいる外国人6人による日本語スピーチが行われました。

日ごろの努力もあり、みなさん上手な日本語で自分の思いを語っていました。中にはスピーチの後にダンスまで披露する人やおいしい料理のレシピを紹介する人もいました。

最後の抽選会では思わぬ賞品を手にして、嬉しさの余り叫びだす人もいて会場も盛り上がりました。

広報委員 塚原

日本語スピーチをされた皆さん



李 艶さん(中国)



朴 持訓さん(韓国)



ベラル・ブイヤンさん
(バングラディシュ)



陸 敏春さん(中国)



閻 春さん(中国)



浦野詩奏さん(中国)

国際理解公開セミナー（ブラジル連邦共和国）

1月27日、勤労市民センターで国際理解公開セミナーが開催された。テーマは「日本から一番遠い大国ブラジル」で、講師はJETROアジア経済研究所の近田

亮平さん。ブラジルでの研究調査を踏まえ、日系社会、食べ物、近年の変化の内容で講演された。

昨年は日本人移民がサンパウロ市近くのサントス港に到着して100周年を迎え、両国で各種記念行事も行なわれたこともあり時宜を得た企画であった。また21世紀に経済的に発展すると言われているBRICsの一員で日本と関係の深いブラジルの話だけに、参加者は熱心に聞き入っていた。

戦前の移民は、コーヒー農園への短期就労で蓄えたお金をもって帰国することを意図していた出稼ぎ移民であったが、戦後は多くが定住目的で、農業移民に加え技術者や結婚を目的とした移民と移住形態が多様化した。海外の日系社会では約150万人と最大の規模となっている。人口比で占める割合以上に日系人の進出は各方面にわたり、国内中枢で活躍されている様子

がわかった。ブラジルの食べ物の大半は国内自給でコメとインゲン豆、そしてシュラスコなどのブラジル食として多様な民族性が食文化にも影響していることを学んだ。

「Por Kilo」というバイキング形式で選んだ料理が重さで値段が決まる話も興味深かった。

近田さん



ブラジルにおける典型的なシュラスコ(Wikipedia)

「Por Kilo」というバイキング形式で選んだ料理が重さで値段が決まる話も興味深かった。

近年の変化を1980年代から10年単位で政治の10年、経済安定の10年そして不平等是正社会の10年とし説明いただいた。不平等を測るジニ係数も改善傾向にあり格差の少ない中間層の創出と大衆消費市場の拡大を現政権は志向している由。

しかしながら依然として汚職や治安、サービスの非効率性、各種手続きの複雑さから課題も多い。現在の世界同時経済不況が短期的にはマイナス要因になるも、長期的にはBRICsの一員として期待も大きい。民主化を経て20年以上もの試行錯誤を重ねて諸制度は実を結びつつあるようだ。活発な質疑で内容の豊富なセミナーであった。

※BRICs：ブラジル、ロシア、インド、中国の頭文字を合わせた4ヶ国の総称

広報委員 佐野

文化庁委託事業「日本語支援コーディネーター研修」に参加して

2009年1月15日～2月26日（全7回）に文化庁委託事業「日本語学習支援コーディネーター研修」（主催：船橋市、共催：国際交流協会）が開催された。

今回の研修は、教室において学習者と日本語学習支援者の間を取り持ち、また日本語学習支援者同士をまとめることができる方を養成することを目的としている。



名であった。3回杉澤経子氏「コーディネーターの役割と機能」、4回山辺真理子氏「ファシリテーションとは何か」、5回宮崎妙子氏「日本語支援コーディネーターの役割～ボランティアコーディネーション」、6回河北祐子氏「日本語支援コーディネーターの役割～ネットワーク」、7回浦和かほる氏「ある教室の実践報告」をテーマに各回とも座学よりも講師から提出された「日本語教室」で起きている、あるいは起きるであろう課題を参加者がグループごとに討議・発表しながらの実践的な進行であった。

第1回（野山広氏「地域日本語教室とは何か」、2回目（伊東祐郎氏「地域日本語教室の役割と機能」）は公開講座にして資格自由で募集したところ80名の参加があり、在日外国人が地域社会の一員として社会参加するのに必要なことは何か？日本人はどんな支援ができるのか？を中心テーマにして「日本語教室」を超えた社会全体を見通して進められた。

第3回目～7回目の受講者は、市内及び近隣市の協会の日本語教室で活動している日本語学習支援者の43



日本の社会の中で外国人が『生活者』として共生するために、日本語教育支援が必要だろう。船橋市では日本語支援ボランティアが活動しているが、その活動をより効果的にするための「コーディネーター」の存在を考える時かなと（もちろん、市・協会の理解は必須条件）研修に参加した記者の思いである。

広報委員 坂井

職場訪問 // // すぐそこにある共生

船橋市国際交流協会では、外国人とともに安心して暮らせるまちづくりを実現するために、市民と在住外国人との共生をはかるいろいろな活動を行っています。

市内の企業を訪問して、一緒に働いている外国人との共生を実践している会社をシリーズで紹介していきます。

株式会社 岩佐製作所

岩佐製作所は、1954年創業の建設機械などの機械部品を製造する会社です。社長は2代目の岩佐吉章さんで働き盛りの方でした。

従業員は約20名で、インドネシアからの実習生が5人います。同社は、先代社長の時から中小企業人材育成事業団によるインドネシアの研修/実習生を受け入れており、もう20年以上になるそうです。

実習生は20代の独身男性で、会社の寮に住み、研修1年、実習2年の計3年で帰国します。イスラム教徒の方が多いので、豚肉はダメなど食べ物の制限がありますが、食事はそれぞれが会社の寮で自炊しているので、困ることはないようです。ラマダン（断食）明けの行事の際には、会社が食事を用意するなどして皆でお祝いするとのことでした。また、時には、社員旅行もあるそうです。

イスヤンディ デブアルディアンさんとラハマン ミルサワディンさんに、お話をうかがいました。2006年6月に来日し、今年6月には帰国する予定です。二人

とも、日本語はインドネシアと日本で合わせて5ヶ月勉強したそうで、日常会話や仕事上の会話は、不自由ありません。

日本での生活は、寂しい時もあるけれど、周囲のインドネシアの友人や、社長夫妻はじめ日本人の同僚などに支えられて、楽しんでいるようでした。帰国後については、好況時は、在日中にインドネシアにある日本企業などに就職先が決まっていたそうですが、今は未だ決めていないとのことでした。

社長夫妻とお二人の話しを伺って、岩佐製作所には日常的に国際交流が自然な形で存在していて、外国人と日本人が無意識のうちに共生している日常がすぐそばにあるのを感じました。

最後に、先代社長夫妻がインドネシアを訪問したとき、実習生OBと再会し、楽しいひとときを過ごしたとのことをお話をうかがったのが印象に残りました。

広報委員 宮



イスヤンディさん



バラシアンさん



ラハマンさん

派遣解雇の外国人を支援

昨年末からの急速な景気悪化の影響で、近畿・東海・北陸地区では、派遣労働者の雇用打ち切りが問題になっていました。

そうした中で、市役所の国際交流室に、全国の国際交流及び多文化共生担当者間で構成するメーリングリストを通じて、派遣切りで職を失った外国人に対する支援を実施している愛知県豊橋市と富山県高岡市の国際交流協会から、支援協力を求める声が寄せられました。

協会では、市国際交流室からの情報提供を受け、同じ目的を持って活動している他の地域の国際交流協会が困窮している状況に応えようと、会長及び副会長を中心とした役員で対応を協議し、市内の総合食品商社である「ユアサ・フナシヨク株式会社」の協力を得て、両協会に対して、緊急支援として千葉県産コメ「ふさこがね」100Kgを2月26日に寄贈しました。

豊橋市国際交流協会と高岡市国際交流協会からは、早々に感謝の声が届きました。



右 田村会長
左 藪中副会長

ズームアップ

ALT (assistant language teacher)のご紹介

船橋市では、国際社会において活躍する「英語を話せる船橋の子ども」の育成を目指し、平成19年度より市内全小中学校で、英語教育の推進事業を進めています。60名余の母語話者が外国語指導助手(Assistant of Language Teacher=ALT)として活動しています。ALTの先生の活動の様子をシリーズで紹介します。今回はヘイワード市から来ているジョー先生です。



ジョー先生は、ヘイワード市のご出身で、カリフォルニア州立大学で工学を専攻し、大学院では統計学と日本語を勉強されました。

大学院時代に日本語を学び、日本人の留学生の英作文の添削などを通じて、日本に興味を持ち、船橋市との姉妹都市事業のALTに応募し、採用されました。

ジョー先生は、日本のマンガの大ファンで、週末は日本人のマンガ家のもとでマンガを描く勉強もしています。将来は、日本語と英語のマンガを描きながら、教育と娯楽の両方にまたがるような職に就くのが夢だそうです。

今回は、先生の前原中学校での授業の内容についてお聞きしました。

1. 問題に答える

英語の歌を聴いて、歌の題名当てクイズ
ふだんの英語の授業で出てくる文法を使って、質問に答える。

What are you doing? (何をしているの?)

I am listening to music. (音楽を聞いているよ)など。

先生のオリジナルの英語のマンガの日本語訳をする。

毎週、宿題で1ページか2ページのマンガを渡され、授業で自分の翻訳を発表する。

2. 聞き取り練習

DVDを見て、状況を英語で説明する。

ある場面に対して、どこで、だれが、何をしているかを判断する。

3. 会話練習

生徒たちが作った対話で練習する。

4. 発音に注意を払いながら、対話練習をまとめる。

このような授業について、先生は、次のような説明をされました。

最初のころは、授業中、生徒がつまらなそうで、とても騒がしかったのです。そこで、生徒に、どうしてつまらないのか、どうすれば楽しくなるのかを尋ねました。生徒は、聞き取りとマンガは楽しいけど、英会話はやりたくないと答えました。そこで、会話練習の時間を短くして、マンガの翻訳と聞き取りの時間を長くしたら、みんなが授業に集中できるようになりました。

今では、週に1度のジョー先生の授業でのマンガの続きを生徒たちは楽しみにしてくれています。マンガの翻訳の宿題も、ほとんどの生徒が提出します。

広報委員 福井

お知らせ

平成21年度の会費納入のお願い

協会の会費は、年度会費です。毎年4月から翌年3月までの1年間の会費です。

同封の「払込取扱票」でお近くのゆうちょ銀行からお振り込みください。

なお、できるだけゆうちょ銀行または千葉銀行口座への振り込みにご協力ください。

〈年会費〉

個人 一口 1,000円

法人・団体 一口 10,000円

※ 二口以上のお手数ですが通信欄に口数ご記入のご協力をお願いします。

〈振込先〉

ゆうちょ銀行

口座番号記号 00170-7-57755

加入者名 船橋市国際交流協会

千葉銀行船橋市役所出張所

口座番号 普通 3018415

口座名義人 船橋市国際交流協会会長

田村 泰一

平成21年度総会を開催します

今年度の事業報告及び新年度の事業計画等を審議、決定するため下記のとおり総会を開催します。

総会に付議する議案は、後日会員の皆さんに送付いたします。

なお、総会終了後には懇親会も予定しておりますので、ぜひご出席ください。

日時 平成21年5月20日(水) 午後3時から

会場 船橋商工会議所6階講堂

(船橋市本町1-1-10)

あとかき

数年来、海外へ渡航する留学生や研究者の数が漸減しているようだ。海外では米国でも中国語を勉強する人が増えているのに日本語を勉強する人たちがかなり減って来ているらしい。これでは知日派が育たない。

世界での日本の存在感が薄れつつある中、国際交流協会のような草の根活動がより大事になって来ていると思う。また日常、一般市民一人ひとりが少しでも海外に目を向けたり、あるいは在住外国人を理解してあげたりすることが大事だ。根っこからそのような輪が日本全体に広がって行けばなんと素晴らしいだろう。

(K.K.)